

授業科目区分		科目名		単 位	科目コード	開講時期	履 修 条 件		
専門教育課程 専門基礎科目 専門基礎		心理情報学実験・演習 Practice of Psychology and Informa tion Science II		2	9517-01	6期(冬期)	修学規程第5条別表第2を参照		
担当教員名		研究室	内線電話番号	電子メールID			オフィスアワー		
授 業 科 目 の 学 習 教 育 目 標									
キーワード		学習教育目標							
1	検査の信頼性と妥当性	人間の心理的な差違(個人差)を表す、性格、知能は、多くの要素から構成されており、多面的な評価が必要であることから、さまざまな検査法が提案されている。本講では、それらの理論と、代表的な心理学的測定方法を、演習を通して学ぶ。また測定方法自体の妥当性評価、及び、正確な測定を行うための実施方法についても学ぶ。これらを通じて、自分自身の心理的な特質についても理解を深めることも目標とする。							
2	知能検査								
3	性格検査								
4	神経心理学的検査								
5	自己理解								
授業の概要および学習上の助言									
本講は大きくは以下のような10のセクションから成っている。									
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションおよび概論(第1~3回講義) 2. 検査の信頼性と妥当性(第4~6回講義)* 3. 性格検査(質問紙法)(第7~9回講義)* 4. 神経心理学的検査(第10~12回講義)* 5. 知能検査(第13~15回講義)* 6. 検査の信頼性と妥当性(第16~18回講義)* 7. 性格検査(質問紙法)(第19~21回講義)* 8. 性格検査(作業検査法)(第22~24回講義)* 9. 性格検査(投影法)(第25~27回講義)* 10. まとめ(第28、29回講義) 									
2~9セクションについては、受講者は4班に分かれて、まず2~4の課題を順番に受講し、続いて後半の6~9セクションの課題を順番に受講する。各セクション終了後、次回講義までにレポートを提出する。それ以外のセクション(1、10セクション)については、受講者全体に対する講義を行う。									
教科書および参考書									
教科書：心理情報学実験・演習 [金沢工業大学出版] 参考書・リザーブブック：心理アセスメントブック 第2版[西村書店]、心理学マニュアル 質問紙法[北大路書房]、心理学実験・研究レポートの書き方[北大路書房]									
履修に必要な予備知識や技能									
本講は、実験演習を伴うものであるため、心理情報学科の学生以外の履修は認めない。本講義は実習を含むため、受講者には、欠席・遅刻しないことはもとより、積極的に講義に参加することが求められる。									
学生が達成すべき行動目標									
	学科教育目標 (記号表記)								
	K,N	信頼性、妥当性という観点から、心理検査の適切性を判断することができる							
	K,N	授業で採り上げた心理検査について、その理論的背景と実施方法を理解し、実施することができる							
	J,K,N	心理検査の結果を報告書にまとめることができる							
	P	心理検査の結果から、自らの心理的特質を知ることができる							
	A,B	心理検査の管理と報告書の取り扱いに関する倫理的感覚を身につけることができる							
達 成 度 評 価									
評価方法		試 験	クイズ 小テスト	レポ-ト	成果発表 (口頭・実技)	作 品	ポ-トフォリオ	その他	合 計
指標と評価割合									
総合評価割合		0	0	80	0	0	0	20	100
総合力 指標	知識を取り込む力	0	0	32	0	0	0	0	32
	思考・推論・創造する力	0	0	32	0	0	0	0	32
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表・表現・伝達する力	0	0	16	0	0	0	0	16
	学習に取組む姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	20	20

総合力指標で示す数値内訳は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価の要点

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点
試験		
クイズ 小テスト		
レポート	レ	それぞれの課題について提出されたレポートを評価する（計8回）
	レ	
	レ	
	レ	
成果発表 （口頭・実技）		
作品		
ポートフォリオ		
その他		出欠席や遅刻の状況、期限を遵守したレポートの提出状況、検査用具・手引き等の返却・管理の状況などで評価する
	レ	

具体的な達成の目安

理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
<p>各心理検査の理論的背景および検査の概要を熟知している。心理検査を扱う上での倫理的配慮に留意し、正確な検査の実施および結果の解釈を行い、明瞭な表現で報告書としてまとめることができる。また自身の心理検査の結果から自己洞察を深め自己実現に役立てることができる。</p>	<p>各心理検査の理論的背景および検査の概要を理解している。心理検査を扱う上での倫理的配慮に留意し、決められた手順で検査の実施および結果の解釈を行い、報告書としてまとめることができる。また自身の心理検査の結果から自己理解を深めることができる。</p>

授業明細表

回数	学習内容	授業の運営方法	学習課題 予習・復習	時間(分)
1	オリエンテーション 本講義の運営方法、学習目標、成績評価について理解する。	学習支援計画書を配布し、その説明を行う。 質疑		
2	心理検査法の概論 心理検査の歴史及び基礎概念を学ぶ。	講義と質疑		
3	心理検査と倫理 心理検査を扱う際の注意等を学ぶ。	講義と質疑	(予習)実験・演習のマニュアルの「心理検査関連資料を扱う際の注意点」を読んでおく。 (復習)講義内容を見直し、知識を確認しておく。	30 60
4	検査の信頼性と妥当性 心理検査の信頼性について知る。 信頼性の指標について学ぶ。	講義と質疑		
5	検査の信頼性と妥当性 心理検査の妥当性について知る。 妥当性の指標について学ぶ。	講義と質疑		
6	検査の信頼性と妥当性 信頼性・妥当性という観点から、心理検査や心理測定に求められる条件について知る。	講義と質疑	(課題)検査の信頼性と妥当性に関するレポートを作成する。	240
7	性格検査 質問紙法 性格測定手法の一つである、質問紙法の基礎知識を学ぶ。	講義と質疑	(予習)第2～3回の講義内容を復習しておく。	30
8	性格検査 質問紙法 質問紙法の一つである日本版MAS(顕在性不安検査)を受検する。	講義と質疑 心理検査の実施		
9	性格検査 質問紙法 日本版MASの結果を整理し、質問紙法に対する考察のポイントを知る。	講義と質疑	(課題)講義内容を見直し、知識を確認しながら、レポートを作成する。	240
10	神経心理学的検査 ベントンの視覚記憶検査 ベントンの視覚記憶検査の特徴や実施方法について学ぶ。	講義と質疑	(予習)実習・演習のマニュアルを読んでおく。	30
11	神経心理学的検査 ベントンの視覚記憶検査 ベントンの視覚記憶検査を実施者、および被検者となり実施する。	検査の実施		
12	神経心理学的検査 ベントンの視覚記憶検査 ベントンの視覚記憶検査の結果をまとめる。 また報告書の書き方について学び、レポートを作成する準備をする。	講義と質疑	(課題)講義内容を見直し、知識を確認しながら、レポートを作成する。	240
13	知能検査 知能検査の基礎知識と田中ビネー式知能検査Vの実施方法を学ぶ。	講義と質疑	(予習)第2～3回の講義内容を復習しておく。	30
14	知能検査 田中ビネー式知能検査Vの結果の整理方法とレポートの書き方を学ぶ。	講義と質疑		
15	知能検査 二人組になって田中ビネー式知能検査Vを実施する。	検査の実施	(課題)検査の実施の続きを行い、自分が検査者として実施した結果をもとにレポートを作成する。	240
16	検査の信頼性と妥当性 第4～6回の講義内容を振り返るとともに、実際に信頼性と妥当性を確認するための方法を学ぶ。	講義と質疑	(予習)第4～6回の講義内容を復習し、実験・演習のマニュアルを読んでおく。	30
17	検査の信頼性と妥当性 第7～9回で得たMASのデータを整理して、MASの信頼性と妥当性の指標を算出するための準備を行う。	パソコンを使用したデータ処理		
18	検査の信頼性と妥当性 MASの信頼性と妥当性の指標を算出する。 またその結果をレポートにまとめる準備をする。	講義と質疑	(課題)講義内容を見直し、知識を確認しながら、レポートを作成する。	240
19	性格検査 質問紙法 「性格」の定義および代表的な性格理論について学ぶ。	講義と質疑	(予習)第2～3回、および質問紙法の実施方法を復習しておく。	30
20	性格検査 質問紙法 質問紙方式の性格検査であるTEG(東大式エゴグラム)を受検する。	講義と質疑 検査の実施		
21	性格検査 質問紙法 TEGの背景理論である交流分析理論を学び、TEG解釈のポイントを知る。	講義と質疑	(課題)講義内容を見直し、知識を確認しながら、レポートを作成する。	240
22	性格検査 作業検査法	講義と質疑	(予習)第2～3回の講義内容を復	30

授業明細表

回数	学習内容	授業の運営方法	学習課題 予習・復習	時間(分)
	性格検査の一つの方法である、作業検査法の理論と方法について学ぶ。 代表的な作業検査法である、内田クレペリン精神検査の理論的ならびに歴史的背景、実施方法について学ぶ。		習しておく。	
23	性格検査 作業検査法 内田クレペリン精神検査を受検する。	検査の実施		
24	性格検査 作業検査法 第23回の講義で実施した、内田クレペリン精神検査の結果を整理、解釈する方法、検査結果の報告書の書き方について学ぶ。	講義と質疑	(課題) 作業検査法による性格検査の結果について報告書を作成する。	240
25	性格検査 投影法 文章完成法(SCT)を受検する。	検査の実施	(予習) 第2~3回の講義内容を復習しておく。	30
26	性格検査 投影法 文章完成法(SCT)の特徴を学ぶ。	講義と質疑		
27	性格検査 投影法 文章完成法(SCT)の結果を解釈する方法と視点を学ぶ。	講義と質疑	(課題) 検査結果をもとにレポートを作成する。	240
28	実習の講評 この授業での実習について教員の講評を聞き、改善点や反省点を確認する。	講義と質疑	(予習) 授業全体を見直し、疑問点があれば明らかにしておく。	60
29	全体のまとめ 講義・実習で学んだ内容を振り返り、知識や理解が不十分であった点について再度学習する。	質疑応答		
30	学習の進捗調整のための予備授業時間			
31	学習の進捗調整のための予備授業時間			
32	学習の進捗調整のための予備授業時間			
33	自己点検授業	質疑応答	(復習) 講義全体を通して理解が不十分であった点を復習する。	60